

1 事業の成果

水中ロボットを使った競技会等を通じて、高校、大学等における水中ロボット工学への取り組みを支援した。このことにより、次世代の水中ロボット工学及び水中工学に関する研究開発及び教育の推進に寄与した。本年度は特定非営利活動に係る事業(1)①のうち、アの事業の実施とウの事業の共催を見送った。一方、当初の事業計画になかったが、(1)①オと(1)③のアとイの事業を実施した。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 水中ロボットを使った競技会、水中ロボット工学及び水中工学の講習会、展示会及びその他各種イベントの企画、開催及び運営に関する事業

ア 第7回水中ロボットフェスティバルの開催

- ・開催場所の確保ができなかったため、今年は開催を見送った。

イ '17 水中ロボットコンベンション in JAMSTEC ～海と日本プロジェクト～の開催 (日本財団助成事業、3年目)

- ・内 容 自作の水中ロボットによる競技会とワークショップを実施した。
- ・日 時 平成29年8月25日～27日
- ・場 所 国立研究開発法人海洋研究開発機構横須賀本部
- ・従事者人員 8人
- ・受益対象者 中学生、高校生、大学生、教育関係者、一般社会人
- ・受益対象者人数 延べ約350名以上(3日間)
- ・支 出 額 2,164千円

ウ 海洋ロボットコンベンション in 沖縄への協力

- ・本年度海洋ロボットコンベンション in 沖縄の開催には複数の会員が協力したが、共催団体としては加わらなかった。

エ 水中ロボットに関するセミナーの開催

- ・内 容 水中ロボットおよび関連する海中技術に関するセミナーを開催した
- ・日 時 平成29年8月26日
- ・場 所 国立研究開発法人海洋研究開発機構横須賀本部
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 中学生、高校生、大学生、教育関係者、一般社会人
- ・受益対象者人数 約60名
- ・支 出 額 0千円

オ Underwater Robots Competition への協力

- ・内 容 国際学術会議OTO'18で実施する自作の水中ロボットによる競技会の準備を進めた

- ・日 時 平成 30 年 5 月 27 日（予定）
- ・場 所 神戸市立ポートアイランドスポーツセンター
- ・従事者人員 6 人
- ・受益対象者 小学生、中学生、高校生、大学生、大学院生、教育関係者、一般社会人
- ・支 出 額 0 千円
- ・準 備 状 況 募集を開始した

② 水中ロボット工学及び水中工学に関連する情報収集，調査及び研究に関する事業

ア 水中ビークル・フリーミーティングへの支援活動

- ・内 容 水中ロボット／水中ビークルの水中自由試験・情報交換
- ・開 催 回 数 年 5 回
- ・場 所 国立研究開発法人海洋研究開発機構横須賀本部他
- ・従事者人員 7 人
- ・受益対象者 高校生、大学生、教育関係者、一般社会人
- ・受益対象者人数 延べ 76 名
- ・支 出 額 56 千円

③ 水中ロボット工学及び水中工学に関する普及，啓発及び推進に関する事業

ア Maker Faire Tokyo 2017 への出展

- ・内 容 小型水中ロボットなどを出展し、小型水槽で実演した
- ・日 時 平成 29 年 8 月 5 日～6 日
- ・場 所 東京ビッグサイト
- ・従事者人員 2 名
- ・受益対象者 高校生、大学生、一般社会人
- ・支 出 額 44 千円

イ 横浜ガジェットまつり 2017 への出展

- ・内 容 小型水中ロボットなどを出展し、小型水槽で実演した
- ・日 時 平成 29 年 11 月 17 日～18 日
- ・場 所 横浜駅周辺
- ・従事者人員 1 名
- ・受益対象者 高校生、大学生、一般社会人
- ・支 出 額 14 千円

(2) 法人の運営

① 広報活動

ア ホームページの公開継続と更新

- ・内 容 ホームページを更新し、最新の情報を発信した。また、サーバーを変更し、経費を削減し、作業効率を向上した。
- ・日 時 通年
- ・従事者人員 3 人
- ・支 出 額 11 千円

② 会員の異動

- 正会員数 期初：32 名、現在：33 名
- 賛助会員数 期初：2 社、現在：3 社

③ その他

日本財団、日本船舶海洋工学会、IEEE OES 日本支部、TON 、MTS 日本支部から助成を頂いた。